

2015 (H27) 年 5 月 20 日

## 農業農村工学会 土壤物理研究部会 ご挨拶

部会長 成岡 市

事務局が山形大学から三重大学へ移動しましたので、この機会にご挨拶を申し上げます。

新事務局の任期は、H27(2015)年4月1日～H29(2017)年3月31日の2年間です。

農業農村工学会(旧称 農業土木学会)には現在 14 の研究部会があり、その中でも土壤物理研究部会は 2 番手にあります。一覧表をみますと、創立順に掲載されているようですので、同学会での古さ加減に薄々気がつくように思われます。

〈農業農村工学会 研究部会一覧〉

<http://www.jsidre.or.jp/bukai/>

古株の一番手は「応用水理研究部会」。発足は昭和 38(1963)年 1 月、当初の部会長は、南 勲博士(京都大学)、沢田敏男博士(京都大学)、菊岡武男博士(三重大学)の三博士が並んでいます。

そして二番手の「土壤物理研究部会」は、一番手と同年の発足で、初代部会長は富士岡義一博士(京都大学)でした。

昭和 30(1955)年、文部省に大学設置基準研究協議会が設けられ、昭和 45(1970)年にはこの協議会の論議の結果として大学設置基準の一部を改正する省令が公布されていますが、上記に例示した研究部会の発足には文部省での協議材料を揃える意味があったのではないかと推察します。この時、研究協議会の農学専門分科会では「農業工学および農業土木学科の学科目(または講座)」が示されており、この中に「土壤物理学」が明記されているようです。当時、農業土木学科の主要学科目(または講座)は、「①農業水利学、②農業造構学、③農地工学、④農業地水学」の 4 科に大別されていて、①は灌漑工学、排水工学、水理学の 3 科目、②は農業水利構造学、農業施設学の 2 科目、③は農地造成学、農地保全学の 2 科目、そして④に農業水文学と**土壤物理学**の 2 科目が細分されています。

北海道大学の岡島秀夫先生は、著書「土の構造と機能」(1989、農山漁村文化協会)の中で「土は生きものか」(序章)と自問自答されています。

自然科学の複雑さを単純な要素に仕分け、「自然現象の底に流れている普遍的な知見を法則として一般化すること」である。また、複雑な現象の全体像を把握する一

つの方法として分析と総合があり、「スペクトル概念」が役に立つ、すなわち「生物と環境の複雑な現象は、複雑さを異にするスペクトルより構成されていると仮定」することである。そして、巨視的レベルと微視的レベルの両方に追求の視線を充てることが重要であると記されています。

そのようなことから、土壌物理研究部会のホームページの冒頭に、二つの画像を並べて掲載させていただきました。向かって左側の画像は、土壌を微視的に認識しようとする時のイメージです。右側の画像は、土壌を野外調査すなわち巨視的に認識しようとする時のイメージです。「理論か、実験か、野外調査か」、そのいずれもが表裏一体・三位一体になっている、という意味を二つの画像に込めています。

この二つのイメージを 2 年間の土壌物理研究部会の主題材料としまして取り組んで参りたいと考えています。

〈土壌物理研究部会〉

<http://www.jsidre.or.jp/bukai/dojyou/>

なお、学術会議登録団体の中に、「土壌物理学会」（長 裕幸会長）があります。この学会と土壌物理研究部会は、相互に連携しながら、シンポジウムなどの開催も同所・同時期に行うようにしています。

〈土壌物理学会〉

ホーム <https://js-soilphysics.com/>

事務局 <https://js-soilphysics.com/bur>

土壌物理研究部会では、何か一つ「ハッとするアイデア」を生み出すメッセージをお送りしたいと考えています。

何とぞよろしく願いいたします。

**農業農村工学会 土壌物理研究部会 事務局**

〒 514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577

三重大学大学院 生物資源学研究科

成岡 市(なりおか はじめ)

Phone/Fax. 059-231-9574

[narioka@bio.mie-u.ac.jp](mailto:narioka@bio.mie-u.ac.jp)

--- end of list ---